



100年前の琉球芸術展覧会

1925（大正14）年9月。「琉球芸術展覧会」が東京美術学校（現東京芸術大学）で開催された。琉球の美術・工芸・建築などを総合的に紹介した日本初、すなわち世界初の展覧会だった。主催した「启明会」は鎌倉芳太郎に多額の研究助成をした学術財団であり、彼に研究を促した伊東忠太（建築家・建築史家）が展覧会を発案。伊波普猷、東恩納寛惇を開催委員に迎え、尚家の全面的協力も得た。展覧会は反響を呼び、昭和初期の「琉球ブーム」の端緒を開いた。启明会の資金提供者、赤星鉄馬の子孫が保管していた関係書類をもとに展覧会の全容に迫る。

2026
2/22 Sun.

よなはら けい
講師 与那原恵氏

ノンフィクション作家。1958年東京都生まれ。『首里城への坂道 鎌倉芳太郎と近代沖縄の群像』で河合隼雄学芸賞、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞を受賞。著書に『歴史に消えたパトロン 謎の大富豪、赤星鉄馬』『琉球切手を旅する 米軍施政下沖縄の二十七年』『美麗島まで 沖縄、台湾 家族をめぐる物語』『帰る家もなく』など。

15:00~17:00
沖縄県立図書館 3F ホール

◆令和7年度新収蔵資料展（2/11~3/16）にて、启明会資料を展示します◆